

集團疎開日記帳

(三十一)



二部五年

乙葉裕子



八月二十日 火曜

時計の

朝早くから目がさめて六時のうつのを  
待ておた。ボンボン。となりだした  
艦び起きたら先生にしかうれた。始め  
からしかうれたのでなんだか氣持かわ  
るかった。  
午後ひる寝をした。タベよく寝られな  
かった。めいぐうぐう寝てしまった。  
起きて見るとみんながまわりをかこん  
で笑っている。だったのでこれは寝すぎ  
たととび起きると、おかしくなっ  
て笑ってしまった。まだ鬼澤さんは寝て  
いらした。先生がどんなことをおや  
りになつてもなかなか起きあきにならな  
いのでおかしくなつて笑ってしまった。  
まだ寝ぼけておてなんだかよくわけ



がめからなかった。こちろに來て  
からは楽しい日ばかりだ

八月二十三日 水曜日



夕べはよく寝られた。朝早く外をあらくと空気がよくて氣持がよい。なんたかおちうしにのつてしまったように、やがに郊外がい園に向った。顔が洗つてな  
時間めは圖書でしたがお話會をした。私はなむなををした。笑ひ  
を聞いたりしてたいへんおもしろかった。三時間めはたなのせいとんをした。私は一ばんはしつこだした。た  
今晚はお風呂に入っていた。た  
えもん風呂でえんづつ入った。ひ  
さしぐりなのでいってまだ三日。  
きれいに洗ったので氣持よくなつた。

田中さんのお家で楽しいお便りを  
書いた。

八月二十四日

木曜日 曇

朝は、~~金~~しゆく舎で御飯をいた  
た。楽しういたたいでみると、  
と音がした。と、~~声~~いとおみよつけが  
もれて來た。私はハッキリした。

一時間めは國語はおざしきでやつた。おとなりでは二部五、六年が算をうをしる。おろしやうした。とうとうこんな所で勉強をするこ  
とになつてしまった。  
午後田中さんのお家へ歸る時は、す  
みやかな雲が向かふの方からもくもくと出て來た。雨が降つてき



さうだな。田中さんのお家では算  
むしちをし。三四班の方からは  
話ごえんが来聲聞え来る。日記を  
かいてみると、とうとう雨がふり  
だした。これですすしくなるだろ  
う。  
郊外園へ出発する時、松本先生が  
にじ。とおっしゃった。私は、  
として空をみた。きれいなにじが  
空高くかかってゐた。私は思はず  
に、にじ、にじ、というてしまった。  
するとみんな、どたどたと外へ  
出て来て、  
あほんたうだ。  
などというてながめてゐた。

。樂し、生活する。  
乙、昔も、えん、に、や、て、る、て  
立派な、  
になるでせう。  
八月二十五日、金曜日、曇時々雨  
今日は朝から少し寒かったので下着をさ  
た。毛糸のセーターをきたかたもいろい  
た。  
國語の時間に、秋のおとづれをなう  
た。秋の氣持のよい心をよく頭に入  
れた。  
夕方郊外園で菅村先生が、  
ある人が三尺あるいて二尺さかり  
三尺あるいて二尺さ、かって十一尺い  
くまでに何分かかるか。三尺一  
分だ。  
とあっしゃった。計算してから



「先生十七分です。」

「いふと先生は、」

「ううん。二十二分だ。もう一回計算してこい。」

とおっしゃった。いくらやっても十七分

だ。又先生の所へ行くと先生は計

算なぞって、

「さうだ。おまへたちのがほんたうだ。」

とおっしゃった。私が、

「さっき私が十七分つていひましたよ。」

といふと先生は

「ああ、ア、あーあー。」

「といって私たちの事をちつともお聞きにならなかつた。」

感想

「こちらに来てからたいへんいろいろな事が變つた。」

まづ朝起きる事があそくかやも自分たちでたたむことになった。今まではお姉様にたたんでいた。てんこもする。軍隊と同じやうなのできびくとして大へんよいと思ひます。



八月二十六日 土曜日

朝目がさめると雨がしとしと降ってゐた。その中を皆で傘をかさをさし、静かな朝を口も聞かずにあるめていった。一時間めはおはがきや日記を書いた。寝しせいを正しくして書いた。

理科の時間はあとの事を、けんきうした。



八月二十七日 日曜日 晴時々雨

今日は、待ちに待った面會日だ。うれしくてたまらない。朝御飯のすんだあとできれいに頭を洗った。先生が、「お手紙がつかないかもわからないぞ。」とおっしゃった。ほんとうですか。とよくきいた。先生は「うん。」

とおっしゃる。私はなんだか、今までのうれしさが、急にさびしくなってしまう。さうし、先生が入江さんからのお手紙をよんでいた。すくしくしてから山本さんのお母様がいらいやた。乙葉さんのお母様も、心ざいらいますよ。



とおっしゃったのでやっとあんしんし  
た。すこしするとお母様がいらっしや  
た。私が、  
「お手紙ついた。」  
と聞くと  
「いいえ、大島さんからお電話が  
あったのよ。」  
とありしやった。それからいろいろ  
お母様とお話しした。  
お母様のいらっしやらなかったかた  
は泣いていらっしやった。  
「はいさうだな。」  
と思った。  
あとで、紙しばみをして下さった  
どんぐりと山猫といふので、たいへ  
んおもくろい。

八月二十七日 月曜日  
疎開してからちょうど一週間。いま  
での生活のはんせいをした。わるか  
た事、よかった事が、次次と頭う  
かんで来る。この次からは、もつと  
ときばきとすること、第一に實  
行しようと思ふ。今日から班長  
も當番もかへった。私たち一班は鬼澤  
さんが班長さん。お當番はござ當番  
だ。★この一週間、しっかりやろう。



八月二十日 火曜日

今日は二年が来る

二時間、目むさし野りやうよう所

へ行った。私はちゅうしゃをしな

くともよいとおっしゃった。

算数の時間に、菅村先生

に、二部五年はたいへんよく勉

強をするとはめて下さった。

さうして、算数のもつとも

よいやりかたやさしいやりかた

をおしえて下さった。

夕方、山先生が就し

空飛ぶ

はおをやって下さった。

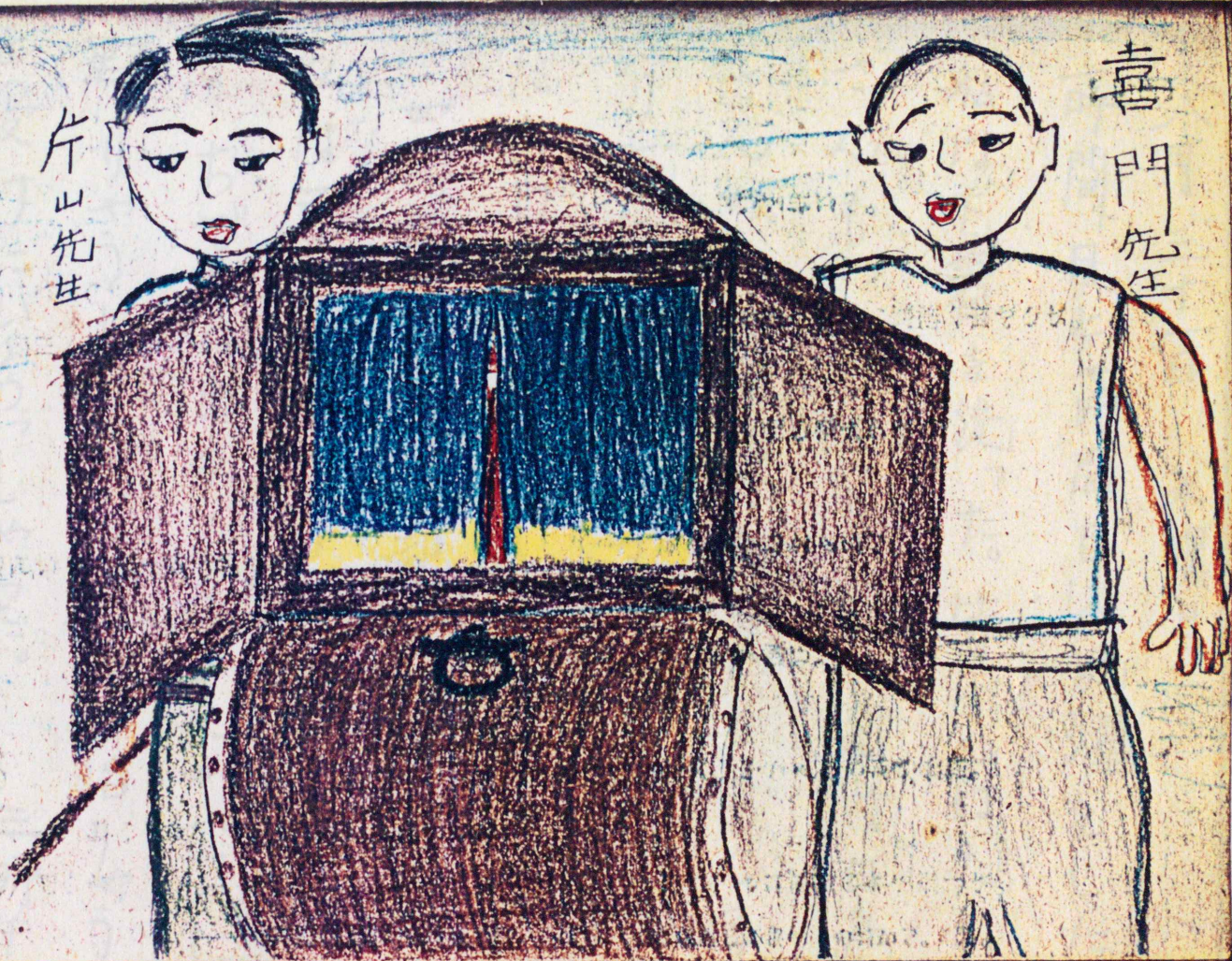
じくうとやしのちゅうしゃを

やって下さった。とてもおもしろい

喜門先生

片山先生

カチ





八月三十日 水曜日

今日 一時間目の体操の時に  
先生に、

「たいへんよく出来ますし、  
といってけられました。」

二時間目は、松の図工、松の  
しや生をした。

午後お風呂たきをした。みん  
なで静沈の歌を歌って元  
氣よく水くみをした。



八月三十一日 水曜日

一時間目と二時間目は洗濯をした。

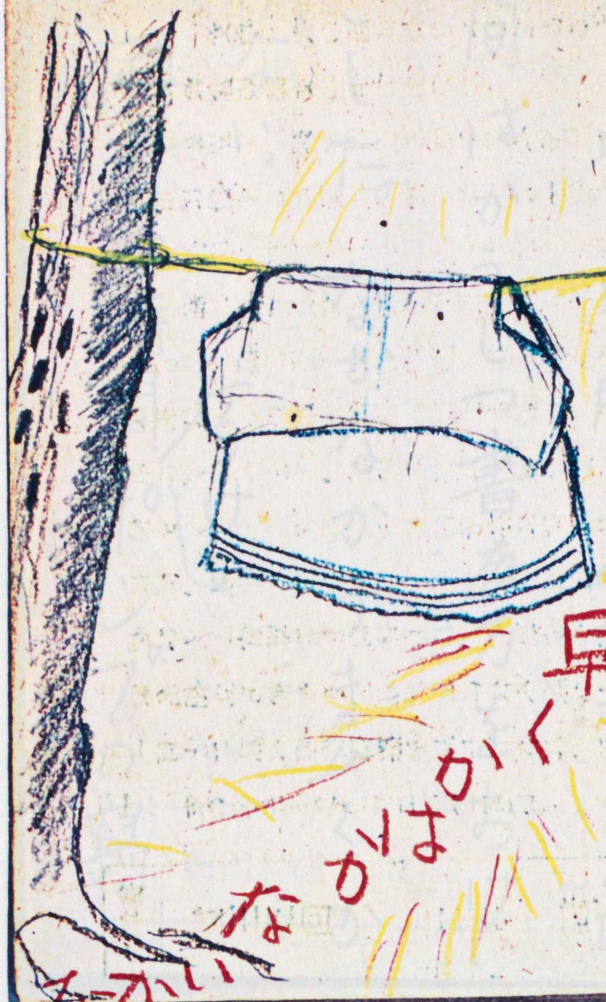
私は下着を洗った。皆さんはたく  
さんもっていらした。私は田島  
さんのをお手傳ひした。あんま  
り石けんをつけすぎてあぶく  
だらけになってしまった。

四時間目は日記をつけた。

私は二十九日から書いた。午後か  
ら、おできの出来てゐる人がむさし  
野りやうよう所へ行つて泊りやう  
を受けにいらした。三時半  
ごろ村野さんへきたき木を取り  
に行った。途中で病院から歸で



いらっしやった方にあつた。原さんは  
ひざの下から、全部ほうたいを  
まいていらっしやった。おきのど  
くだなと思った。歸りは、お  
もいゝたき木を二本。兩手  
にかかへて、すたこゝろと  
あるいてかへつた。私は早くつい  
たので、あとからいらっしやる方の  
たき木をもっていつてあげた。



九月一日 金曜日

午後から甲中さんのお家で荷物  
のせいとんをした。

四五時半から發表會があつた。

一番始めは一部三年の楽しい  
疎開學園といふのだった。三

年生であるのに、たいへん上手

であつた。今日は時間がなかつ

たので三、四つで終りだった。

最後に、前田先生と菅村先生

が花火をして下さつた。とて

もきれいだった。歸りはまるい

お月様がきれいに、お空にかが

やいてゐた。きつと、お母様方も



このきれいな美しいお月様を  
見ていらっしゃるにちがひなひ  
さうして、私の事を考へてい  
らっしゃるだらう。



九月 二日 土曜日

今日は、一時間目のお習字の時

間はかうしつ書を方をおけい

こした。なかなかうまゆか

けない。

理科の時間、<sup>おけい</sup>ポンプの寫

生をした。どんなにうごくか  
どんなしかけか。よく見て書

いた。書体休みにうやぎに草を

やった。うやぎは、はなを

ぴくく、やってかはいかった

夕方田中さんのお家へ歸る

時、大きなく、お月が木林の上  
にぼかりと上つてゐた。





九月三日 日曜日 曇

今日は四年生と六年生の聯面會  
日だ。私たちはもう<sup>あと</sup>一週間。一週  
間位ずぐ立つからそれまでがまん  
をして、一生けんめい勉強しやう。  
二部六年の方はうれしやうにして  
いらっしやう。私のお母様がいら  
なやうな気がする。

午後相良さんと、~~る~~を書いて  
遊んでねた。するとよすけ先生  
が窓からおのそきになつて、  
「乙葉さんはダベ先生のかげが  
とんをどんどんひっぱってと  
たね。」



とおっしやってお笑ひになつたので  
はづかしくてたまらなかつた。  
二時半から發表會があつた。  
今日はまわりにお母様お父様  
方がいらっしやるので、機嫌がう  
堂でやってゐるやうなかんじ  
だつた。私たちは歌をやつた。



九月四日 月曜日

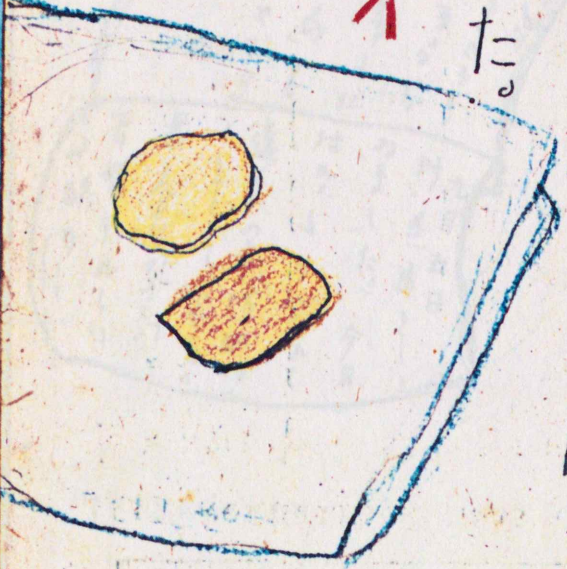
夕べは喜門先生がおとまりになった。

午後は竹運び、二人で二本の竹を持った。私は七理さんだった。長い竹。一、二、三と運んだ。

夕方、先生がお八にあめ玉を二つつつ下さった。ひさしぶりでなめたあめ。ほほがあちさうだった。

オイシイ

アメ



九月五日 火曜日

朝郊外園へ向った時は、とてもきりが深く、遠くの方にはぼろーとしてよく見えなかった。

今日もお天気になるな。と思ひながら、あるいていった。

二時間めの音楽。疎開して始めての音楽の時間。お空の天じゃう。松の木が、日かげを作ってくれた下で、楽しい音楽をやった。

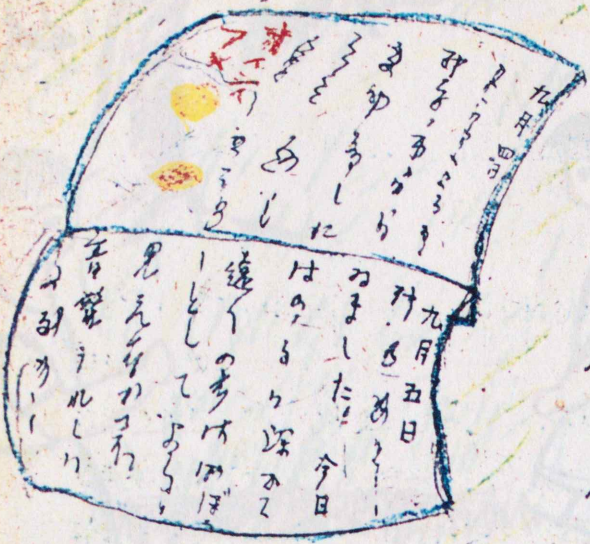
三時間めは國語の自羽白。日記を書いた。



午後は田中さんのお家へ作業に行  
た。今日は畠の草むしり。作業  
が終ってからお八つをいただいた

今日けビスケット四つづつ。と  
てもおいしい。よくあじあつて  
いただいた。郊外園へ行くと  
校長先生へ谷先生が来ていらし  
た。お食事まで、ゴム飛びをし  
て遊んだ。夕食後お風呂に入っ

日記



九月六日 水曜日  
朝五時半に起床。まだ眠  
むかった。

午後から、お洗濯。私と堺  
井さんと安岡さんと七理さん  
の四人で、学校で洗った。

お日様はかんかん照るが、

すずしい風がさあー

と吹いてくれた。その中で

ジャブジャブ お洗濯し

た。お洗濯がすんでから

よく風の通る所で日記を

書いた。作業が終ってか

らお八つをいただいた。





今日はみかんのれいとう。その  
 上にみつをかけてくださった  
 あまぐておいしいみかんのれい  
 とう。お食事まで**流気よく**  
 をしてあそんだので、夕食は  
 たいへんおいしくいただけた。  
 歸りは風がわりと強かった。

土	習	地	理	國	史	國	算	地	算	作	6
金	裁	修	國	國	史	算	國	地	算	作	5
木	裁	體	國	國	史	算	國	算	算	作	4
水	體	圖	史	國	國	算	國	算	算	作	3
火	武	音	理	國	國	算	國	算	算	作	2
月	圖	森	體	國	國	算	國	算	算	作	1